

て室内の裝飾にして居る所もある様ですが、如何に子供の室でも私はこの裝飾にはあまり感心しない、裝飾の額にはやはり思ひ切つた眞の藝術品を用ふる方がよい)

また繪雜誌を保姆がいろ／＼に工夫をして例へば其の中の話を作りかへたり或は繪をつくりなほしたりして自由に之を利用する事も出来る事とせう。

要するにこの繪雜誌は各方面に今一層の努力をして今以上に進歩させなければなりません。

(筆記……文責記者)

生けるものは盡く

周圍に一種の空氣をつくる

(ゲーテ)

橋の上から。

ふと、橋を渡りかゝる。荷船が今、岸についた。子供が、一人、二人、三人、四人、船に居る。十六七の男の子、十一二の男の兒、十位の女の兒、赤坊はその背にねむつてゐる。四つ位の男の兒、それに、色黒の父と母と。船には砂を山の様に残んでゐる、板一枚が岸に渡された。砂は菰ではこぼれる。父さんが棧橋わたつてエツサ／＼と行くその隙に、末の子は大きな砂掻き、そつといぢる、重い柄がわづかに動くと、その兒はニツコリ、うれしそふ。父さんと總領息子は運び役、母さんと二番目の子は掻きこせる役、女の子は子守役、末の子は棒切ふりあげて身體ばかりは忙しきうにお世話焼き。父と母と子と、家族が同じ仕事に一生懸命。彼の住居は竿竹一つで悪ひのまゝに水上を移り行く一艘の船。面白がる船の生活。涼しがるう船の生活。樂しがるう、父と母と子と一緒に。

梅雨の暗れ間の陽がキラ／＼と水面を照してゐる。

(六月某日…… T.K.)